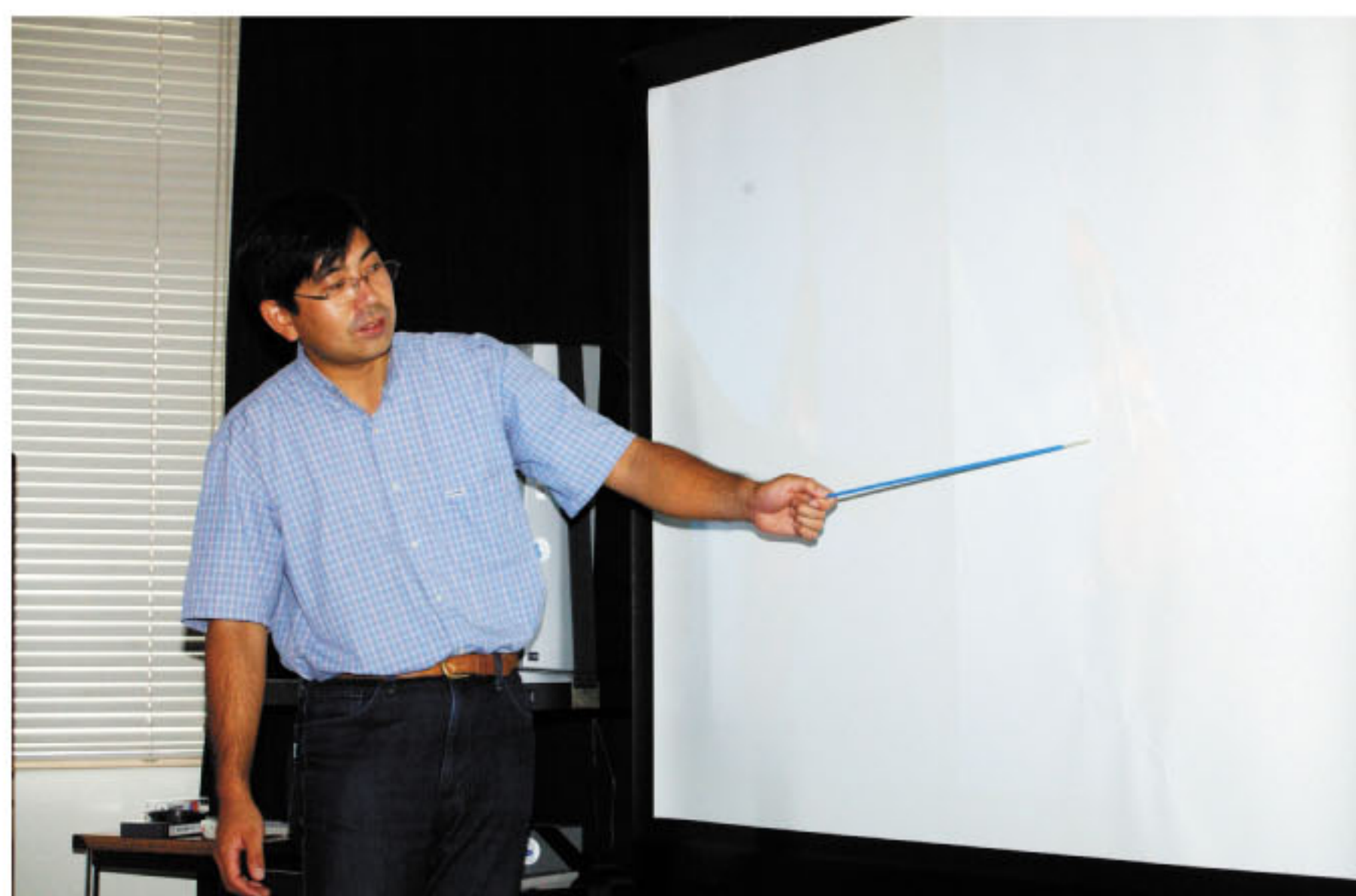




好評・大菊さんの錦鯉セミナー。今回は昭和編

墨の変化を追う——
丸堂産昭和①

関口系統の鯉を3パターン見ていただいたわけですが、今度は新潟の丸堂養鯉場の昭和です。松本真司さん（愛好家）が以前持っていた、種別日本一を取った1m近い昭和がいたんですが（参考写真口）、その兄弟（阪井産）を親にして採った鯉です。

これは2才の時の姿（8—A）ですが、浅黄のような綺麗な浅黄墨（a）がひとつの魅力になっています。皆さん、この浅黄墨がどう変化するか予測できるでしょうか。



系統を勉強していくとわかるんですが、この当時の阪井産の昭和は、浅黄墨の墨は全く出てこないと言われていました。それを親にしたので、これもおそらく一生影のまま終わるんじゃないかと思っていましたが、案の定、影のままでした。

次の年、3才の姿（8—B）です

が、同じですね。影のままです（b）。ただ、緋盤に乗っている墨は凝縮されて大きくなって、墨の出がはつきりとしてきました（c）。

この時の松本真司さんが持っていた、阪井産のジャンボになる系統の昭和というのは、緋盤に乗っている墨は出てきます。出てきて凝縮されるんですが、白地に乗っている、白地に含まれている浅黄墨というのは、ずーっと一生浅黄墨で終わるんです。影の魅力と言いますが、墨絵のような魅力があって、またこれのひとつの「芸」としておもしろい鯉だなと僕は思っているんです。

その影になっている墨が出るか出ないか、どこで判断したらいいのかというのを、いろいろ考えてみたんですが、これ（a）はすごく浅黄によく似ていると思いませんか。鱗が、センターに行くにしたがつて濃くなるんですね。そして周りは白くなっている。鱗の外側に白いふちどりがあ、こういう墨はおそらく墨として出ないのではないかなと、仮説を立ててみたんですが…。

あとでこれと同じような影墨のパターンで、逆に墨が出るという鯉と比較するとそれがわかると思うんで

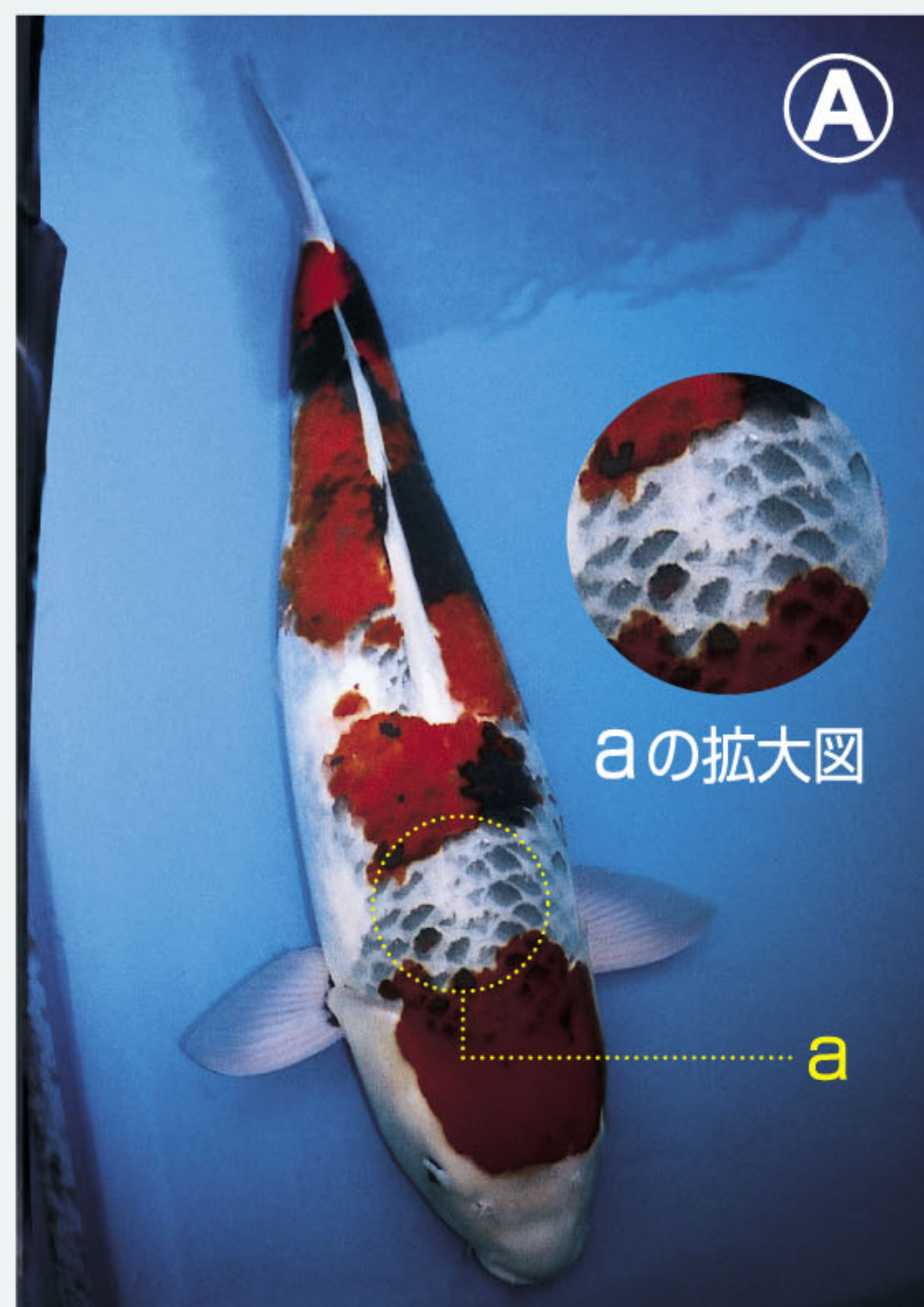
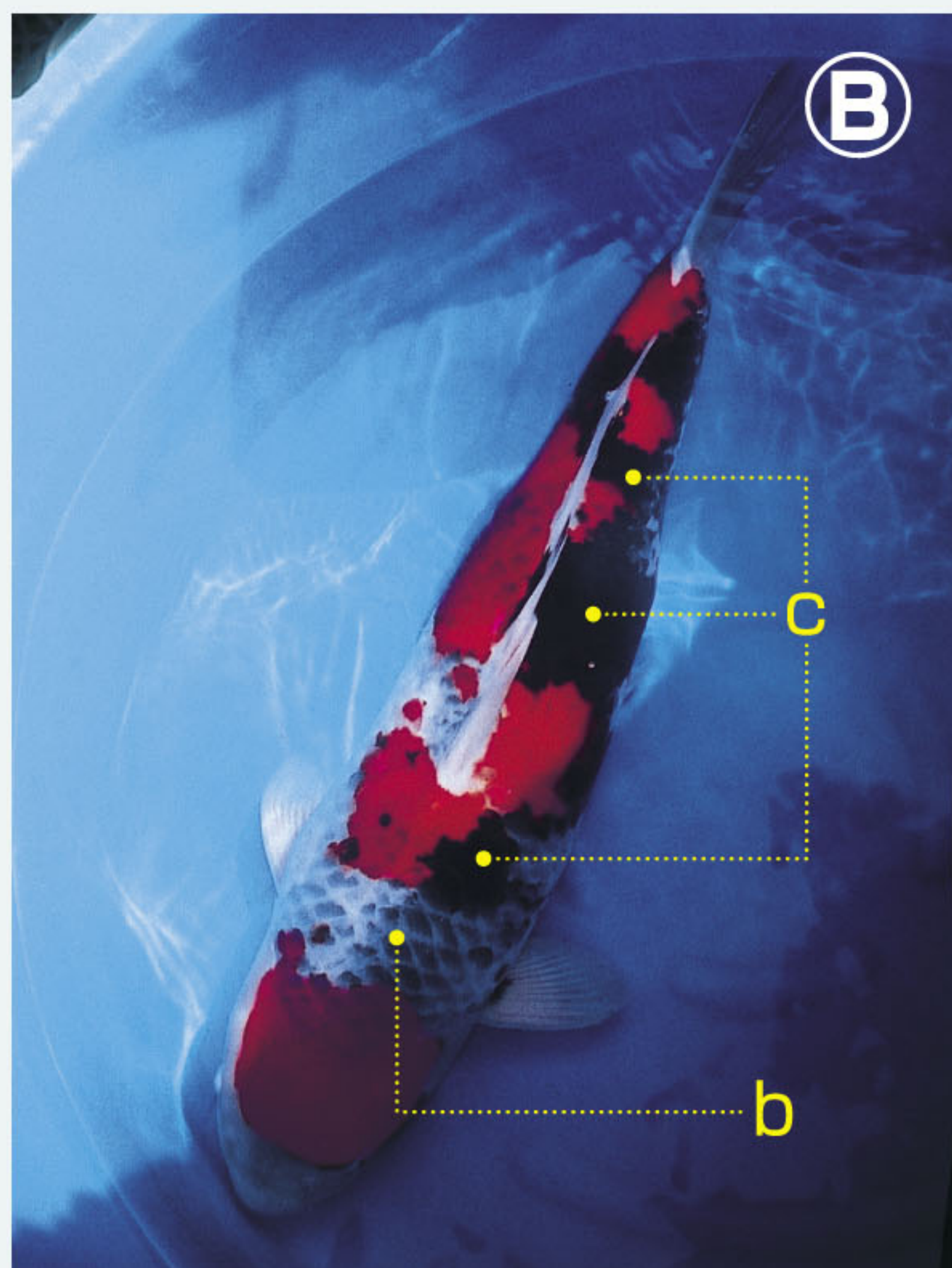
昭和 三色

墨の変化を楽しむ

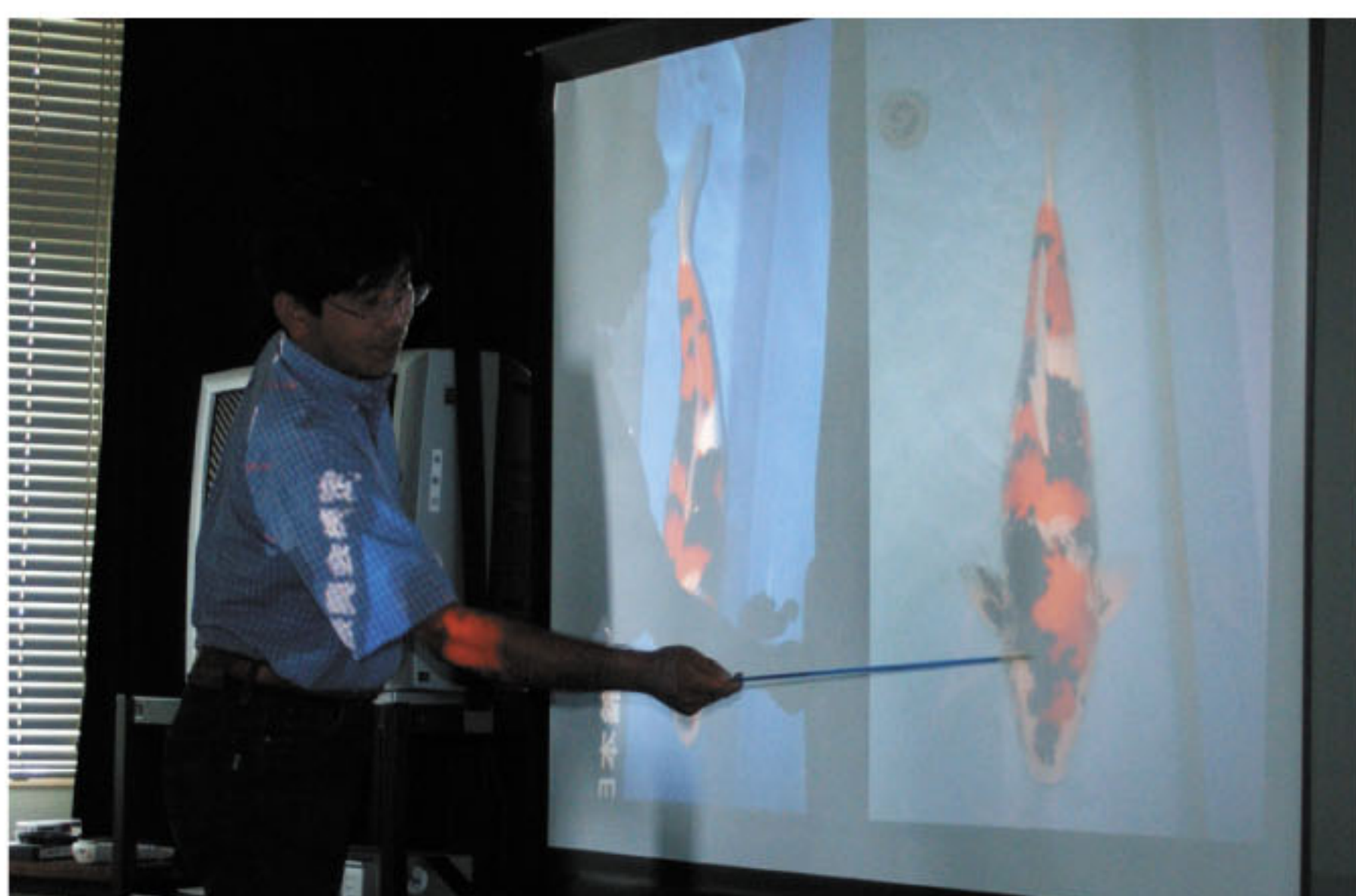
第3回

平成16年9月20日（祝）、横浜錦鯉の大菊拓朗氏が金沢産業振興センター（横浜市）で行った錦鯉セミナー、『昭和三色—墨の変化を楽しむ』のもようをお送りする第3回です。

最終回となる今回は、丸堂産昭和の変化を追います。



写真⑧／新潟・丸堂産（親／阪井系）



スライドを使って説明する大菊さん



金沢産業振興センターで行われたセミナー

すが、たぶんそういう理由でこの鯉は（墨が）出ないんじゃないかなと自分なりに予想してみました。

墨の変化を追う——丸堂産昭和②

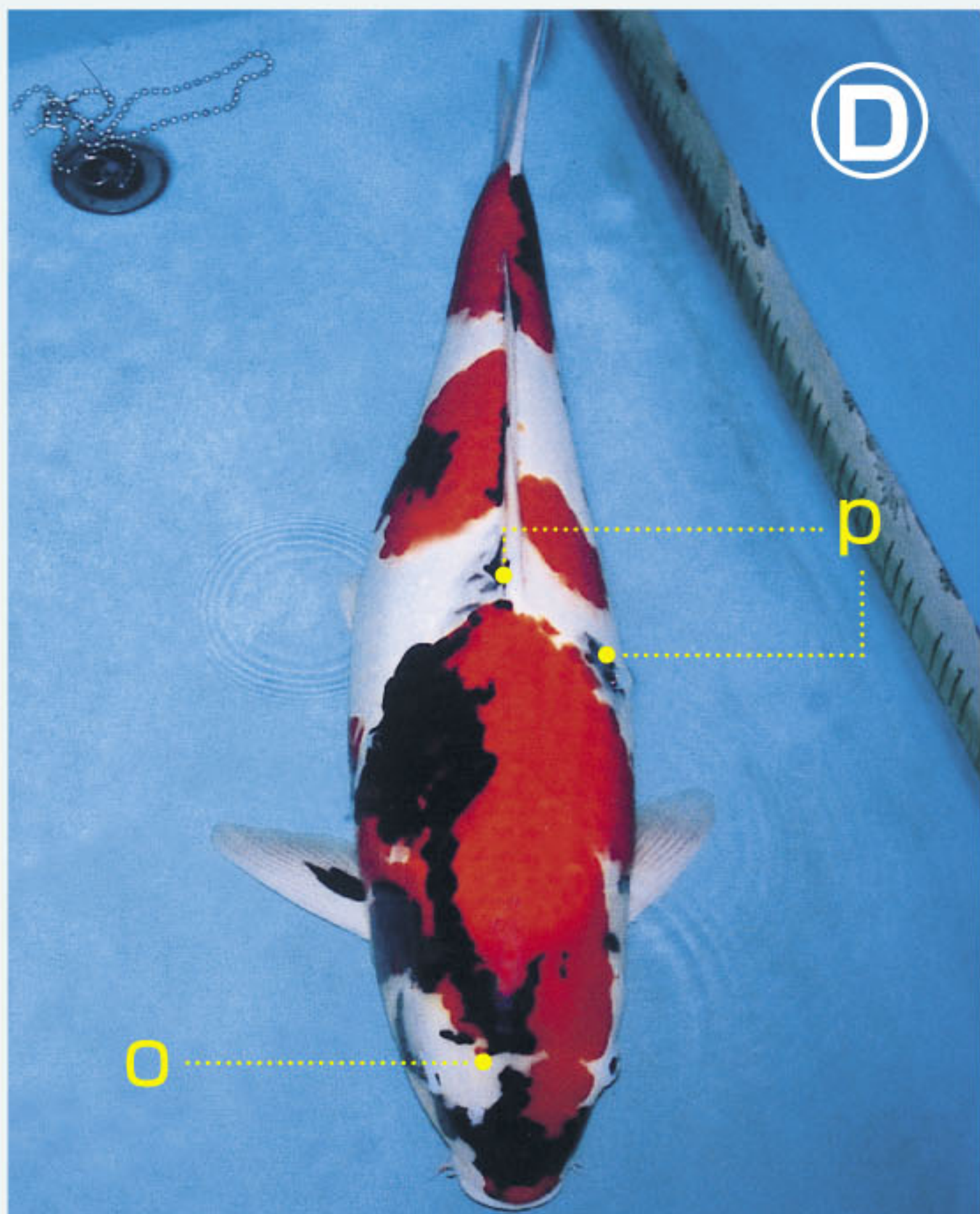
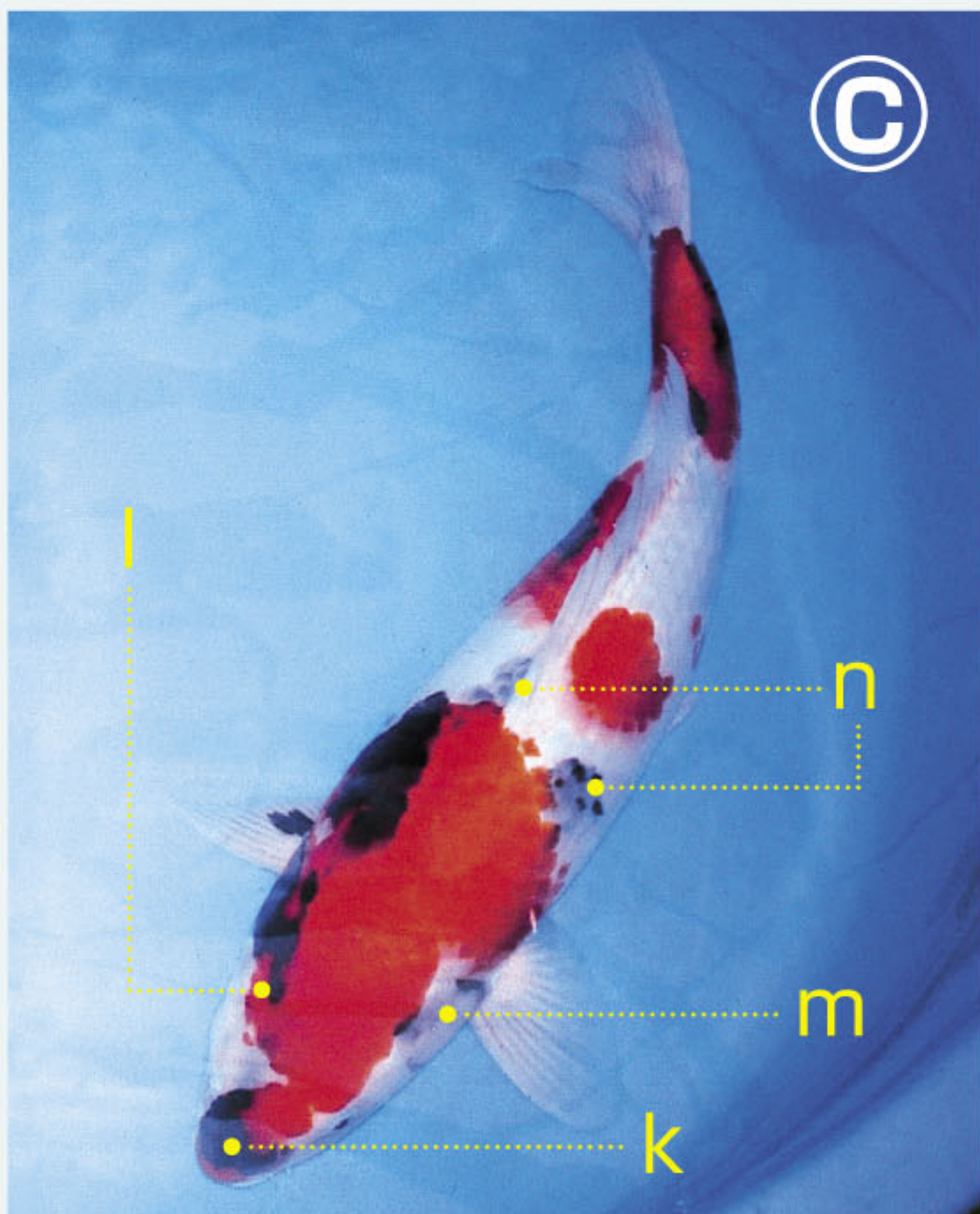
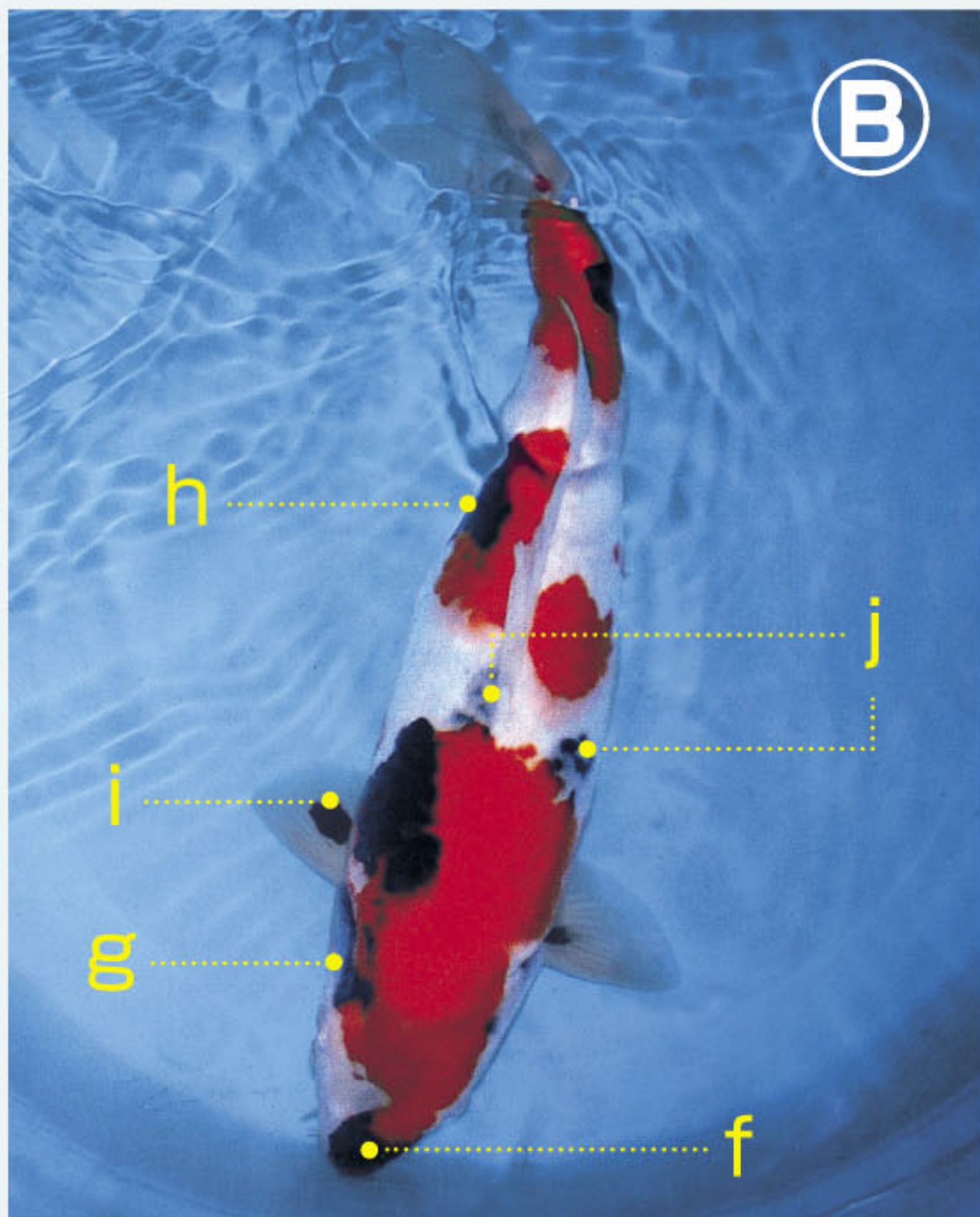
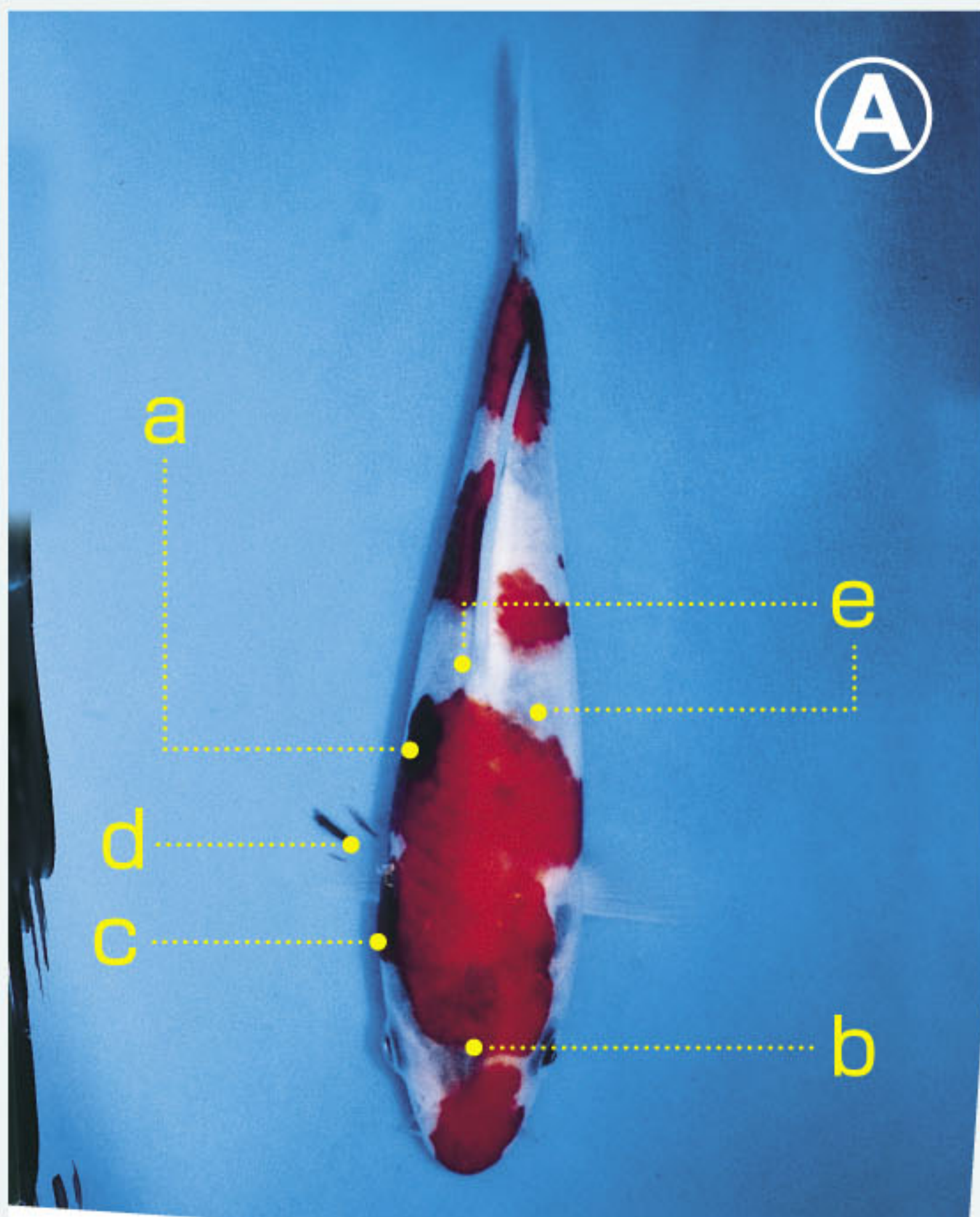
次も丸堂さんのところの昭和で、当才からの変化の過程を見てみます。

これは丸堂産の当才（⑨—A）です。お正月の当才だったので、15cmぐらいの本当に小さい、オスメスがわからない昭和です。ほとんど墨が出ていない、出ているのはここ1箇所です（a）。あとはみんな沈んで

いる状態ですね。

でも見ていただいてわかると思うんですが、鉢に墨があつて（b）、鰓蓋えらぶたのところにも墨があつて（c）、手にも墨があつて（d）、そして市松のようにいいところに墨があります。沈んでいるので、将来はそれが出てくればおもしろいんじゃないかなという予測のもとに仕入れてみました。

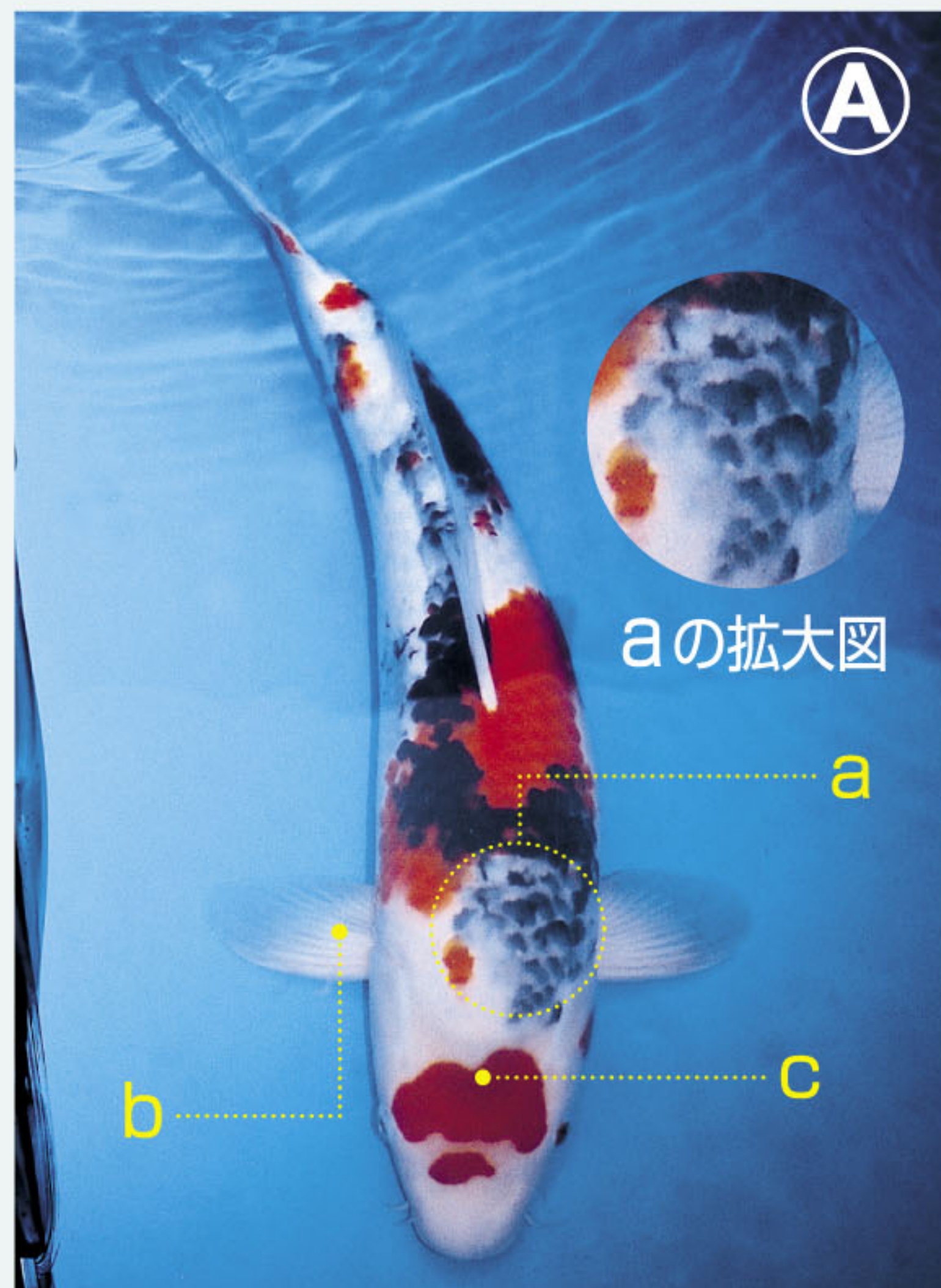
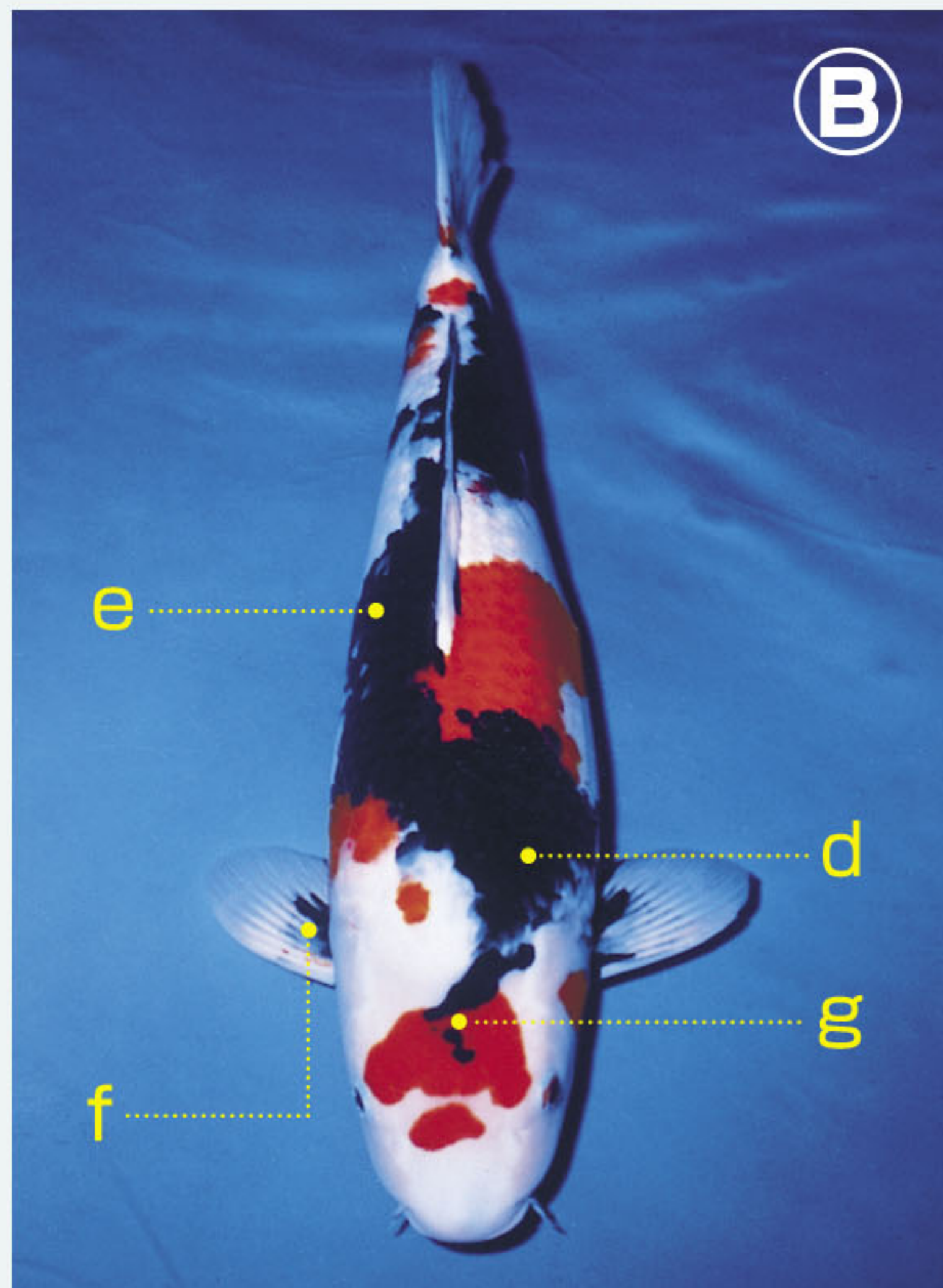
で、実際これがお客さんの手に渡って、1年飼いでどうなったかと言うと、こうなりました（⑨—B）。



これが2才の時の姿です。口墨（f）が出てきたのと、鰓蓋のところの墨が出てきたのと（g）、ここにあった墨がはつきり出てきて（h）、そして元黒がしつきり出てきました（i）。この時（⑨—A）は元黒はなかったんですけどね（d）。それとこの白地に沈んでいる墨（e）も、少しずつ浮き出してきた（j）、という変化が現れてきました。これをもう1年立てて、3才の姿がこれですね（⑨—C）。2才（⑨—B）と3才の変化を見てみますと、口墨の面積が増えたのと（k）、鰓のところの墨がさらに拡大して、こちら側にもう1本筋が出てきています（l）。それから、こちらの鰓のところをはつきり出てきたのと（m）、3才になってくると体のつきりがしつかりと頑丈になってきた、というような感じの変化がありました。

で、さらにもう1年飼って、4才になりますと、こうなりました（⑨—D）。

鉢のところの墨がさらに拡大してきて、鉢割れ状態の墨にもう少しでなるのではないかという感じで墨が走ってきてますね（o）。で、白地



写真⑩／新潟・丸堂産（親／大日系）

にあった沈んでいた墨も、まだ浅黄っぽいような墨（n）だったのが、はつきりと出てきています（p）。ポリウムもついてきているので、おそらくもう1年、5才になるとほぼ完成品になるのではと思われるます。

この当才（9—A）が4年経つとこうなる（9—D）わけですね。15cmの鯉が、今62cmになっていますが、こういう感じで変化しています。

墨の変化を追う——丸堂産昭和③

先ほど、丸堂の昭和で、阪井の系統の血が入ったものは影墨の墨が出ないという話をしましたが、次の鯉（10—A）は阪井産の親ではなくて、大日系の昭和の親を使って、丸堂さんの息子さんが作った鯉です。

これは2才の時で、この影（a）はさつき（写真⑧）と同じように見えるんですが、どこが違うかというところと鱗の外側に色があるんですね。芯にある濃い墨と外側にあるところの色が、だんだん淡くなってきた、真っ白の部分がないんですね。真っ白の部分がないというのは、（墨が）後から出てくるのではないかと、一つ仮説を立ててみました。

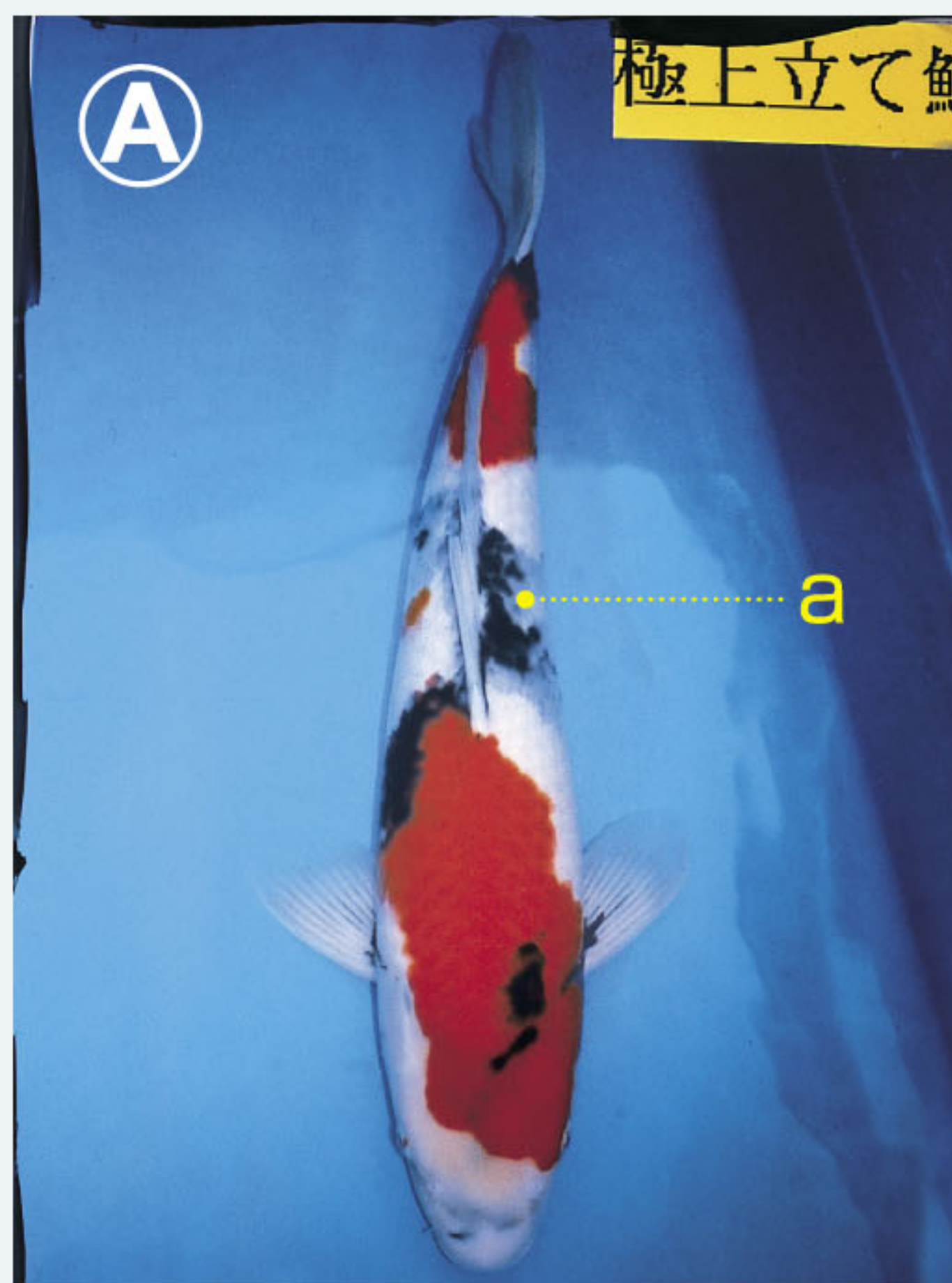
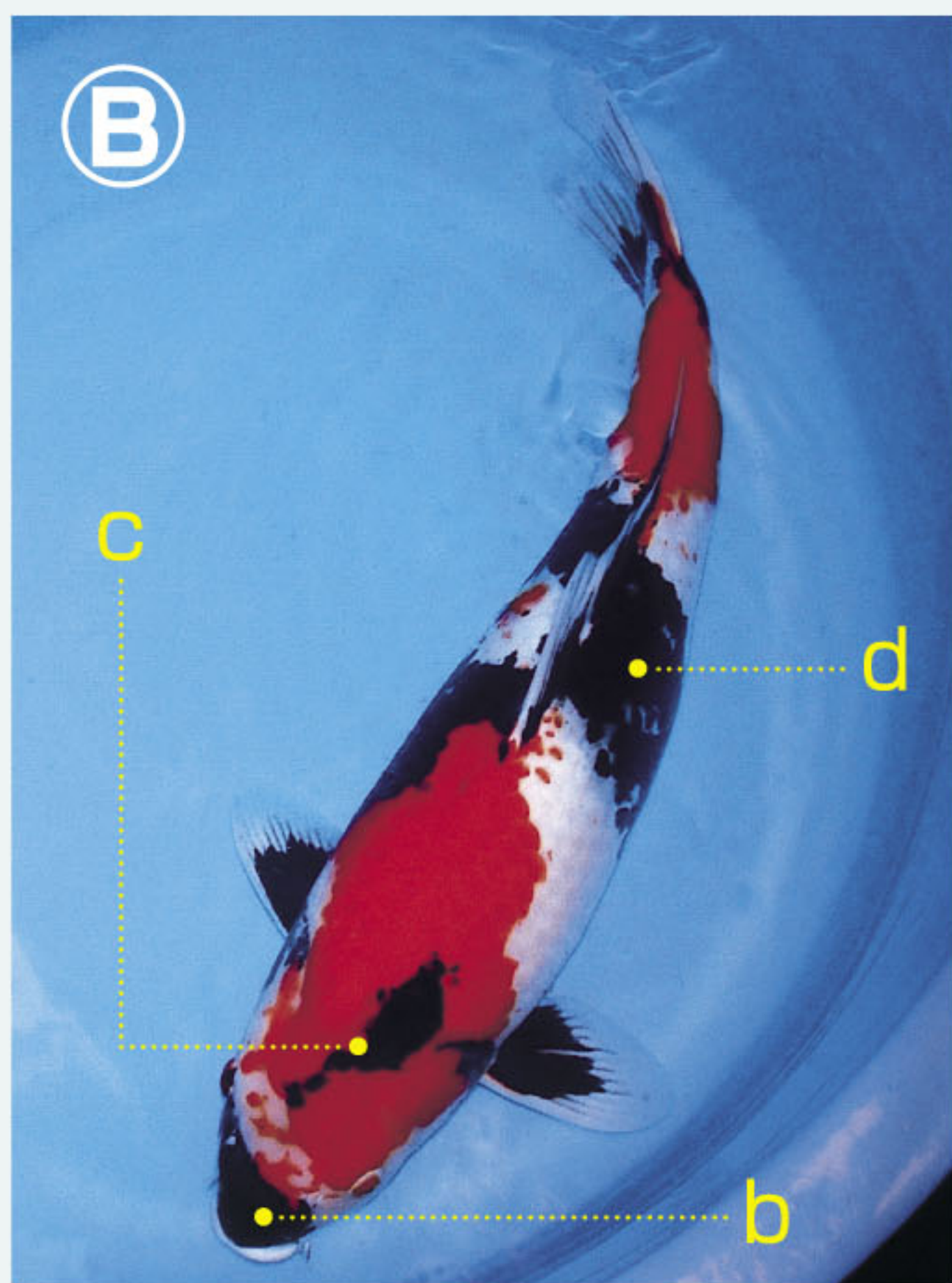
で、これを半年飼ってどうなるかと言うと、半年後の姿がこうです（10—B）。この墨が完全に出てきて（d）、白地にあった墨も完全に出てきて（e）、昭和の豪快さというのが出てきた感じですね。

それから、この時（10—A）は元黒がない綺麗な手だったんですが（b）、元に墨があっただんでしょね、これが出てきています（f）。鉢も墨がなかったんですが（c）出てきている（g）、というような変化を見ました。これはかなり大変わりする鯉になるんじゃないかなと思います。この鯉は、この秋に4才になって揚がってきますので、楽しみにしているところです。

墨の変化を追う——丸堂産昭和④

次も写真⑩と兄弟で、同じ時にうちに入ってきた鯉の2才の時の写真です（11—A）。

墨のタッチが同じだと思いませんか？ 白地にある墨がやっぱり浅黄みたいで（a）、外側に行くにしたがつて色が薄くなってきましたが、真っ白の状態ではない墨なので、これも出てくるだろうという予測のもとに仕入れてきました。で、実際に



写真⑪／新潟・丸堂産（親／大日系）

うなったかと言いますと、1年経って3才になった時の姿がこうです（⑪―B）。

大きく変わったのは、沈んでいた口墨がこれだけ出てきましたね（b）。鉢のところも（c）、稲光りが走っているような墨がだんだん出てきました。それから、体のこの墨がいいですよ（d）。この白地にあった影の墨が完全にVの字に出てきました。昭和としてはかなり豪快さが増してきたんじゃないかと思えます。

この時（⑪―A）だちょっと白地が多くて、昭和としては少し物足

りないかな、と思う方もおられるかもしれませんが、この姿を見ていただければ誰もが「昭和だ」というふうに感動してくれると思います。

で、この鯉がまた1年経つとどうなるかと言いますと、こうですね（⑪―C）。これがほぼ今の姿です。このあいだ、お客さんのところへ行つて実物を見てきましたが、めちゃめちゃすごかったです。72cmになっていました。さらに墨がパワーアップしていました。しっかりした木目の細かい墨になっていました。この時（⑪―C）は8割方の仕上がりがだったのが、ほぼ完璧に近い状態で墨が出てきました。

これ（⑪―A）を2年辛抱して飼っていたかくとこう（⑪―C）なりますという事で、これだから昭和はおもしろいんですね。

というような感じで駆け足でしたが、昭和の変化の過程をスライドで見てきました。全般的に言えることは、昭和は墨の出方ひとつで鯉の価値がガラッと変わってしまうという魅力があることを、皆さん再認識していただけたのではないでしょうか。